

1999 年度 第 4 回情報化委員会議事録

1. 実施日時・場所

1999 年 11 月 11 日(木) 13 時～17 時

愛知大学豊橋図書館

2. 出席者

議長 中京大学(小島 英治)

記録 愛知工業大学(津田 朋美)

愛知大学(三浦 文博)、岐阜経済大学(堀江 淳也)、金城学院大学(鈴木 卓美)、
椙山女学園大学(河路 峰雄)、豊橋創造大学(川上 雅子)、
名古屋商科大学(下口 ウェイン 正則)、南山大学(笹山 達成)、
日本福祉大学(石川 宗臣)

3. 議題

3.1 システム・ネットワーク化情報交換会開催について

3.2 2000 年度見学会について

3.3 「館灯」のデジタル化について

3.4 アンケートの集約状況の報告と分析について

4. 議事内容

議事に先立ち、第3回議事録の記録内容について確認が行なわれ、若干の修正の後承認された。

4.1 システム・ネットワーク化情報交換会について

1)実施要項(プログラム)について、下記のように決定した。なお、情報交換会当日には、
講演者名等が入った正式なプログラムを配布する。

9:30 受付

10:00 情報交換会

- ・会場校挨拶 金城学院大学図書館長 西原一幸氏
- ・委員長挨拶 中京大学図書館 小島英治氏
- ・情報交換

12:00 昼食

13:00 講演1 「新 CAT システムにおける UCS の採用について」

学術情報センター(講演者未定)

14:00 講演2 「電子書籍の最新動向」 イースト(株) 下川氏

15:00 休憩

15:30 プレゼンテーション・セミナー

1. 「WADEX/DVD-ROM」教育情報(株) 細井五氏
2. 「EpicWin」ミノルタ(株)

17:00 閉会

(17:30 または 18:00 から 懇親会)

2)情報交換会当日の委員の役割分担は以下のように決定した。委員は当日、9:00 に集合す

る。

受付 会計 笹山
資料配布 津田
撮影 石川
記録 三浦
アンケート報告 川上
講演者接待 小島・鈴木
会場係(会場の掲示、弁当、お茶、ケーキ) 鈴木
司会進行 情報交換会 小島
講演 下口

*当日必要な領収書の作成は鈴木委員が行う。

東京からの講演者2名への交通費・謝礼の支払いを考慮した結果、参加費を一人 2,500 円徴収することに決まった。講演者の交通費と謝礼を併せて、一人 50,000 円とした。また、参加者の昼食代は 1,000 円/1 名、ティータイム(紅茶とケーキ代)500 円/1 名、懇親会費は 5,000 円/1 名と決まった。

会場では、情報交換会の間は大学名順(大学名プレート使用)・対面で座り、当日に会場を見た上で、昼食後、席を並び替えるかどうかを決める。大学名プレートについては、委員長が椋山女学園大学にあるかどうかを確認する。

図書館見学については、昼食後に自由に見学することとする。

委員長は、講演者のプロフィールおよび会場入りの時間を確認する。また、金城学院大学に会場の確認をしに行く。

プログラムはホームページに載せる。

情報交換会開催通知は 11/12(金)に送付、参加申し込みの締め切りは 11/26(金)とする。翌週に委員長が鈴木委員に人数を報告する。

4.2 2000 年見学会について

筑波および学術情報センターの見学に決まった。

4.3 「館灯」のデジタル化について

第2回の幹事会で、これから新しく発行される「館灯」についての著作権クリアに関する話題を出し、第3回の幹事会までに、原稿を電子化することに関して「館灯」の原稿の申し合わせ事項(または規約)に載せる方向でたたき台を作り、総会にはかることができるようにする。

次年度総会をめざし、「館灯」38号からデジタル化に取り組む。その際に、実行部隊がどこになるのか、データを作成するのはどこなのかを幹事会ではっきりさせる必要がある。

「館灯」のデジタル化について具体的な問題として、印刷された「館灯」を読むイメージでデジタル化するのか、それとも Web の特徴を生かしたものにするのか、名簿・宣伝・規約を載せる必要があるのかどうか、また、そのデジタル化の形式をどうするか(PDF、HTML…等)ということが挙げられた。

4.4 アンケートの集約状況の報告と分析について

川上委員から、アンケートの集約状況の報告が行われた。その中で、蔵書数は昨年度調査数値を訂正しているのに、DB 数を訂正していない回答をした数大学に関しては、川上委員がそれぞれの大学に問い合わせをし、また、異常値は省くことに決まった。CD-ROM ネットワークタイトル名の回答で不明なものは、当日に聞くことができれば、参加者に確認する。

各大学のアンケート回答結果表については、「パッケージ名」の後に「現システムの利用開始時期」と「リプレイス予定」を挿入して順番を変え、その資料を情報交換会で配布する。

情報交換会でのアンケートの報告はグラフとコメントで行い、川上委員はアンケート分析資料を用意する。

反省点として、アンケート項目の説明が必要だった(例えば「雑誌数」の受け取り方が、タイトル数の場合と冊数の場合の両方あった)ということや、電子ジャーナルに関する質問で、電子ジャーナルの定義があいまいだったために、回答する側に解釈の違いが出てしまったこと、同様に、資料の電子化への取り組みについても質問に曖昧さがあった点が挙げられた。後者2者については、今回は予備調査ととらえ、次回のアンケートに参考になるような話を情報交換会で参加者から聞くことができれば、ということになった。他には、何月何日現在の数値を入力と明記した方が良かったかもしれないという意見も出た。